副院長あいさつ



副院長
藤岡　洋成

平素より当院の運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は、地域の急性期医療を担う中核病院として、救急医療、高度急性期医療、周術期医療の充実に努め、患者さまに安全で質の高い医療を提供してまいりました。

加えて、私の専門である悪性腫瘍に対しましても、診断から手術、薬物療法、他院と連携した放射線治療、支持療法、療養支援に至るまで、院内の多職種が緊密に連携し、地域の医療機関とも協力しながら、患者さま一人ひとりの病状に応じた集学的治療を適切に切れ目なく提供することで、安心して治療に臨んでいただける病院でありたいと考えております。

また、本年度は令和６年度診療報酬改定の趣旨を踏まえ、医療DXの推進や院内の情報連携の充実に一層取り組んでまいります。あわせて、昨年度より継続して進めております働き方改革の一環として、院内でのタスクシフトや業務効率化をさらに推進し、AIやRPAなどの先端技術を活用した業務支援にも注力しております。

生成AIにつきましても、安全性と情報管理に十分配慮しつつ、文書作成支援や定型業務の効率化などへの活用の可能性を検討し、職員がより専門性を発揮できる、働きやすくやりがいのある職場環境の実現を目指してまいります。

今後も、地域の皆さまに信頼される急性期病院として、変化する医療環境に的確に対応し、より良い医療提供体制の実現に努めてまいります。今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



副院長
小野　盛夫

前年度は、地域の皆様をはじめ、関係医療機関の先生方ならびに多くの皆様のご支援のもと、菊名記念病院は地域の急性期医療を担う病院として、質の高い医療の提供に努めてまいりました。心より感謝申し上げます。

医療を取り巻く環境は、少子高齢化や医療従事者不足、医療DXの進展など、大きな変化の中にあります。そのような状況だからこそ、私たちは「断らない救急」「迅速で安全な急性期医療」「地域完結型医療」の実現を目指し、多職種が一丸となって日々の診療に取り組んでおります。

当院では、循環器診療をはじめとする専門医療の充実に加え、救急医療や脳卒中診療、リハビリテーションなど各診療部門が連携し、患者さま一人ひとりに最適な医療を提供できる体制づくりを進めております。また、医療の質と安全性の向上を最優先に考え、教育・研究活動にも積極的に取り組み、次世代の医療人材の育成にも力を注いでいます。

地域医療は病院だけで成り立つものではありません。地域の医療機関、介護・福祉施設、行政との連携をさらに深め、地域全体で患者さまを支える医療体制の構築に貢献してまいります。

今後も「信頼され、選ばれる病院」であり続けるために、職員一同が同じ目標を共有し、より質の高い医療と温かい医療サービスの提供に努めてまいります。引き続き、皆様のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。